
車窓

三國

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

車窓

【Nコード】

N8753T

【作者名】

三國

【あらすじ】

この作品は、flumpoolの「車窓」をベースにしたものです。

作者の、勝手な解釈で書いているので、自分のイメージが壊れるのが嫌、という方は読まないください。

読んで、イメージが壊れたり、不愉快な気持ちになったとしても、作者は一切の責任を負いません。

突然、空がどんよりとした雲に覆われ、太陽が隠れる。太陽が隠れたせいで辺りが暗くなる。そして、激しく雨が地面に降り注ぐ。君は雨にうたれながら、人がたくさんいる駅のホーム、その隅にたたずんでいる。そんな君の事を、僕は電車の中から見つめている。

発車ベルがなり、ドアが閉まる。そして、電車が動き出す。雨に濡れていく君の姿が、少しずつ遠くなっていく。僕は、思わず銀の窓枠を掴み気づく

(ああ、僕はまだ)

でも、言える訳がない。今でもまだ君の事が好きだなんて。別れる原因は僕にあり、別れようと言ったのは君ではなく、僕なのだから。僕は言うのではなく、君が、君の微笑み、寂しさ、強がりを受け止めてくれる人と、出会い幸せになることを願う。

とうとう君の姿は見えなくなってしまった。僕は窓を開けようとした。だが、窓は動かない。未だ降り注ぐ雨に窓が濡れ、そこから見える見慣れた街並みが、滲んでいく。それを見ていて僕は びしょ濡れになってしまっているだろうから、意味がないと分かっているながらも 無性に傘を君に届けたくなった。

夢を諦めることができず、君ではなく夢をとった僕を、君は見送ってくれた。本当は辛かったのだろうに。そんな君だから、いや君だけに伝えたいな。君がとても素敵で、愛されるべき人だということ。そして、誰よりも包まれていて欲しいということ。

君の事を考えていると、思い出す。君が言ってくれた言葉を。

(『あなたなら、きつと夢を叶えることができる』、か)

君が僕に言葉を残してくれたみたいに、僕は君に何か残せた物があるのかな。

(もし、残せていたんなら、嬉しいな)

電車が目的地に着き、僕は新たな地に足を踏み入れた。

「ん、ん〜。ふう」

僕は大きく伸びをし、空を見上げた。ここはむこうと違い、空には雲一つない。そして青く澄み渡っていて、とても気持ちがいい。むこうは、どうなのだろう。もう晴れたのかな。まあ、晴れているだろう。あれは恐らく通り雨だろうから、あのまま降り続けているということはないだろう。風邪をひかなければいいけど

「よし、行くか」

僕はもう、進みだしたのだ。見送ってくれた君のためにも、止まる訳にはいかない。いつか、僕が夢を叶えて戻った時に、もし君がまだ僕の事を好きでいてくれたら、その時は いや、今はそれを考えてはいけない、取り敢えず前に進むのだ。振り向かずに。

（後書き）

最後まで読んでくださりありがとうございました。
お手数ですが、評価と感想の方を書いてくださると非常に助かります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8753t/>

車窓

2011年10月8日21時44分発行